



「知的障がいのある児童生徒の授業充実- 子どもの力を伸ばす教材・教具- 」

日時	平成29年9月15日(金)	受講者	26名
目的	知的障がいのある児童生徒の授業における各教科等を合わせた指導等について、教材・教具の工夫を含めた実践力の向上を図る。		
講義	義 「知的障がいのある児童生徒の授業充実 ～アクティブ・ラーニングの視点から～」	特別支援教育センター 指導主事 渡部 和幸	
実践発表	実践発表 「私の授業づくり ～子どもの力を伸ばす教材・教具の工夫～」	西郷支援学校 教諭 佐藤 綾氏	
演習	演習 「各教科等を合わせた指導における授業づくり」	特別支援教育センター 指導主事 今泉 祥子	
協議	協議 「知的障がいのある児童生徒の指導における 授業づくりと教材・教具の工夫」	特別支援教育センター 主任指導主事 佐藤 登 指導主事 今泉 祥子 指導主事 大竹奈保子 指導主事 林 裕子 指導主事 富村 和哉 指導主事 渡部 和幸	
			
<講義> 「知的障がいのある児童生徒の授業充実 ～アクティブ・ラーニングの視点から～」 1. アクティブ・ラーニングとは 2. 知的障がい教育におけるアクティブ・ラーニング 3. 各教科等を合わせた指導の実践 4. 各教科別の指導の実践 新しい学習指導要領で示された授業改善の視点であるアクティブ・ラーニングについて確認しました。主体的・対話的で深い学びは、これまで知的障がい教育の授業づくりで大切にされてきた視点であることを再確認し、授業をさらに充実させるためのポイントを提案しました。	<実践発表> 「私の授業づくり～子どもの力を伸ばす教材・教具の工夫～」 1. 私の授業づくりと教材づくり 2. 生活単元学習の授業の教材・教具の事例紹介 3. まとめ 子どもの実態把握(興味・関心)にもとづき、授業の目標に適した教材・教具を選択することが大切であること、教材・教具を準備することがゴールではなく、そこが授業づくりのスタートであることについて実践発表いただきました。「教師が楽しまなければ、子どもたちも楽しくない」という言葉が印象的でした。		
<演習>「各教科等を合わせた指導における授業づくり」 研修者が今後行う予定の授業について、「各教科等と合わせた指導内容整理表」を使いながら、各教科の目標を指導のどの場面で、どのように位置づけていくのかについて演習をしました。	<協議>「知的障がいのある児童生徒の指導における 授業づくりと教材・教具の工夫」 グループごとに授業の「ねらい」と「目標」を明確にし、子どもの実態に沿った教材・教具の活用について実践報告をしながら、今後の授業づくり、教材作りへのアイデアを出し合いました。		
受講者の感想			
<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援担当として、目指すべき授業の姿が分かった気がした。(中学校教諭)</li> <li>教材・教具を考える上で、大切なこと、足りなかったことに気づくことができた。(小学校教諭)</li> <li>生活単元学習に含まれる各教科の要素を書き出して、関連を整理する作業は、これから実践していきたい。(特別支援学校教諭)</li> <li>協議では、校種の異なる先生方の話を聞くことができ、勉強になった。(小学校教諭・特別支援学校教諭)</li> </ul>			